

# エイズ治療拠点病院医療従事者

## 海外実地研修報告書

### 1 研修参加者

所属病院名：国立病院機構仙台医療センター

職名：薬剤師

氏名：神尾 咲留未

### 2 研修日程：2017年11月25日（土）～12月10日（日）

### 3 研修の内容

○11/27（月）

訪問先 UCSF, 1545 Divisadero Street, Room326

講師 Dr. Mitchell D. Feldman (Professor of Medicine. Chief, Division of General Internal Medicine. Associate Vice Provost.)

テーマ Welcome、Introduction to UCSF

Feldman 先生より UCSF について説明、総合内科診療所内の見学

○11/28（火）

訪問先 Highland Hospital Adult Immunology Clinic

講師 Yolanda, PharmD (Clinical Pharmacists) , Gabriel Chu (薬学部大学院4年生)

テーマ HIV care observation with Dr. Howard Edelstein

Highland Hospital の HIV 診療外来における臨床薬剤師の役割について説明を受け実際の服薬指導と院内薬局の見学

アメリカにおける薬剤師教育制度について

訪問先 UCSF, 1545 Divisadero Street, Room523

講師 Dr. Mitchell D. Feldman, MD,M.Phil

テーマ HIV Epidemiology and Prevention in the US

アメリカにおける HIV 感染症の疫学と予防、アメリカと世界における現状について

○11/29（水）

訪問先 3668 16th Street (Dr.Edelstein's home)

講師 Dr. Howard Edelstein, MD, Chief of Highland Adult Immunology Clinic

テーマ HIV primary care discussion

New medication

新薬、アドヒアランスを向上させるためのコツ、治療の費用、PrEP、薬剤師の役割について、Q&A方式で Edelstein 先生より説明

○11/30 (木)

訪問先 SFGH Ward 84 conference room

講師 Dr. Ma somsouk, MD

テーマ GI issues in HIV

HIV 感染による消化管への影響、HIV の根治に向けて現在行われている研究について

訪問先 SFGH, Inpatient pharmacy

講師 Jeanette Cavano, Jullie Russel

テーマ Inpatient pharmacy tour

SFGH の院内・外来薬局の見学

訪問先 Mission Neighborhood Health Center

講師 Neal Sheran, MD

テーマ Team-based system

アドヒアランスを保つための医療、ソーシャル、コンプリメンタリサービス

訪問先 Terra Gallery

テーマ Clinica Ezperanza's Masks Exhibition-a fundraiser for HIV service

MNHC によるコンプリメンタリサービスの一環として MNHC 受診患者が作成したマスクの展示、翌日の世界エイズデーにむけてセレモニーやライブが行われた

○12/1 (金)

訪問先 Castro Street ファシリテーター David Wiesner

カストロ地区の Walgreens 薬局を見学

訪問先 Tom Waddel Health Center, ホームレスを対象とした HIV 専門クリニック

講師 Barry Zevin (MD), Leah Warner (NP), Kathie Nowicki (PharmD)

テーマ adherence for challenging cases

ホームレスや薬物中毒者に対するチームでの支援内容について、症例を 2 例提示して説明

訪問先 Grace Cathedral, California Street and Leavenworth Street

テーマ 30<sup>th</sup> anniversary of the Names Project, AIDS Memorial Quilt display; Gay Men's concert at AIDS Interfaith Chapel  
World AIDS Day のイベントに参加

○12/4 (月)

訪問先 Castro street

担当者 Shanon Corbin、Shohei Burns

テーマ Alliance Health Project, HIV testing van observation

High-risk group prevention education, Early testing/early start

HIV 検査車の見学

○12/5 (火)

訪問先 SFGH(Ward 84)

講師 Laurence Huang, MD

テーマ Pulmonary issue and HIV

HIV 患者の肺疾患について、レントゲン画像を見ながらの症例検討

訪問先 San Francisco General Hospital

講師 Jon Oskarsson

テーマ Adherence, Dealing with foreign patients, Early testing/early start, Tour of Ward86

SFGH の HIV 外来診療の概要、外来見学

訪問先 UCSF, Medical Sciences Building, 513 Parnassus Ave.,RoomS-715

講師 Dana Francis (MSW)

テーマ Hematology, HIV and social work, Hemophilia treatment center

UCSF の血友病治療センターHTC について、MSW の役割

○12/6 (水)

訪問先 SFGH Building 3, Carr Auditorium

講師 Katherine Grieco

テーマ Substance Use Disorder

Review of naltrexone for opiate, alcohol, and Stimulant use disorders

麻薬の過剰摂取問題、オピオイド中毒における薬物治療、ナルトレキソンについて

訪問先 SFGH Ward 86 (Building 80, floor 6), 995 Potrero Avenue

講師 Janet Grochowski, PharmD

テーマ Observation of patient consultations

SFGH の HIV 外来での薬剤師の仕事内容、服薬指導の見学

訪問先 San Francisco General Hospital

講師 Janet Grochowski

テーマ The role of the clinical pharmacist in the HIV team

SFGH の HIV 外来における臨床薬剤師の役割、薬物相互作用についての解説

○12/7 (木)

場所 da Vinci Villa

テーマ View DVD of “And the Band Play on”

サンフランシスコにおける HIV 感染症の歴史についてビデオ鑑賞

○12/8 (金)

場所 da Vinci Villa

研修参加者のプレゼンテーション

#### 4 研修の成果・感想

2 週間の研修で、サンフランシスコにおける HIV 診療の現状や歴史、薬剤師の役割について幅広く学ぶことができました。アメリカでは日本に比べて薬剤師が非常に頼りにされており、薬剤選択や検査オーダー、患者教育や評価などとても内容の濃い業務を行っていました。日本とアメリカにおける薬剤師の教育制度の違いが、業務内容や薬剤師の地位に差がある大きな要因の一つとなっていることが分かりました。

ちょうど研修期間が世界エイズデーに重なったこともあり、いくつかイベントにも参加し、HIV 感染者がどのような気持ちで今まで生きてきたのか、現在までの心境の変化についても知ることができました。また、エイズで大切な人を亡くした人たちの思いにも触れ、医療従事者としてこういった背景も鑑みて診療にあたっていく必要があります、今後また HIV のような未知の感染症が現れたときに、我々はこの教訓を生かして迅速に対応していくことが重要であると感じました。

サンフランシスコでは LGBTQ や HIV 陽性者の方がたくさん住んでおり、日本と比較するとそれらに関する知識が多くの方に広まっている印象がありました。サンフランシスコではバスや電車、駅など街中の至るところに PrEP や LGBTQ に関する啓発ポスターが貼られており、そういったものも情報の拡散・HIV 予防促進につながっているのだと思います。サンフランシスコでは、医療従事者だけでなく行政や患者団体の並々ならぬ努力がこ

れまでにあり、それが HIV 新規感染者の減少につながっていると感じました。日本では医療従事者においても HIV や LGBTQ に対して知識不足による偏見・差別がまだあることから、ブロック拠点病院に勤める薬剤師としてまず自施設・他施設の医療従事者に対して正しい知識を伝達していきたいと思いました。

若年者、薬物中毒患者、うつ病患者、統合失調症患者の中でも、特に若年者の治療成功率が低いという話がとても印象に残っており、中高生などの若い人に対して HIV や性感染症に関する啓発活動を行っていくことの重要性を改めて実感しました。

今回の研修において各訪問先で先生方が共通して重要だと話していたのが、患者との関係性を良くするにはどうしたらいいかを常に考え、病気ではなく患者自身をよくみていく、という医療従事者の患者に対する向き合い方についてでした。「どの薬を処方したら良いか知っているのは大事なことだが、通院できなかつたらまず意味がない。病院に毎回来てもらうためには患者と良い関係性を築いていく必要がある」ということや、「薬を服用できない原因として何がその人のバリアになっているのか、その人にとっては今何が一番大切なのかを汲み取ることが重要」という話を聞き、患者さん 1 人 1 人に対してしっかりと向き合っていくことが非常に大切だと感じました。私は今まではアドヒアランスの悪い患者に対して、服用できない理由を聞きはしますがその内容をじっくりと聞くことよりも、きちんと服用しないとどうなるかという説明をすることに一生懸命になっていました。いくら説明したところで、相手がそれを受け入れる体制・気持ちになっていないと意味がないので、まずはなぜきちんと服用できないのかじっくりと話を聞き、相手を受け入れる姿勢を持って接していくことが重要であると感じました。

最後に、今回の研修のコーディネイトをさせていただいた小林まさみ様、Dave Wiesner 様、お忙しい中ありがとうございました。また、一緒に研修に行った諸先生方との出会いがとても貴重なものであり、日々の業務で困っている内容についてアドバイスをいただいたり、ディスカッションする中で自分では考え付かないような有意義な意見を聞くことができたりと、大変勉強になりました。今回の研修に参加できたことは私の薬剤師人生においても貴重なものであり、派遣していただいたエイズ予防財団の方々や、快く送り出してくれた当院のスタッフの皆様には非常に感謝しております。今回の研修で学んだ内容を、今後の HIV 業務や日々の薬剤師業務に活かしていきたいと思えます。